

千葉大学医学部附属病院
ビジョン2040懇談会
報告書

2024年3月18日

ビジョン2040懇談会

ビジョン2040懇談会メンバー

(座長)

大鳥 精司 整形外科 教授・副病院長 (診療・人事)

(アドバイザー)

横手 幸太郎 病院長

(構成員)

佐藤 大介	次世代医療構想センター 客員教授
井上 貴裕	病院長企画室 特任教授・副病院長 (経営改善・薬事)
中田 孝明	救急科 教授・副病院長 (経営・イノベーション)
鈴木 拓児	呼吸器内科 教授・副病院長 (将来計画再開発・国際)
小山田 享史	事務部 事務部長・副病院長 (事務統括)
伊藤 彰一	総合医療教育研修センター 教授・病院長補佐 (教育)
浅沼 克彦	腎臓内科 教授
馬場 隆之	眼科 教授
菱木 知郎	小児外科 教授
甲賀 かをり	産科・婦人科 教授
近藤 祐介	循環器内科 准教授
谷口 俊文	感染症内科 准教授
三澤 園子	脳神経内科 准教授
坂本 信一	泌尿器科 准教授
上里 昌也	食道・胃腸外科 診療准教授
古田 俊介	臨床研究開発推進センター 特任准教授
川崎 健治	検査部 臨床検査技師長
森田 光生	リハビリテーション部 療法士長
飯森 隆志	放射線部 副診療放射線技師長
山崎 伸吾	薬剤部 准教授・副薬剤部長
鮎澤 ひとみ	看護部 副看護部長 (総務)
藤江 舞	臨床工学センター 臨床工学技士
大塚 秀郷	病院長企画室 特任准教授
土井 俊祐	病院長企画室/企画情報部 特任講師・副部長
荘野 典文	事務部 総務課長
高橋 実	事務部 医事課長
細川 敬貴	事務部 経営企画課長

序章 千葉大学医学部附属病院ビジョン 2040 の経緯

千葉大学医学部附属病院（以下、千葉大学病院）を取り巻く将来の社会環境は大きく変化していく。そのような環境にあっても千葉大学病院が地域から求められる役割を果たすため、その理念と基本方針のもと、千葉大学病院と職員一人ひとりが大切にしている価値観や役割を具体化したメッセージ（ステートメント）が必要である。2020年4月に横手幸太郎病院長が着任し、少子高齢化が進み現役世代が急減する2040年に向けて、時代や社会情勢が変わっても揺るぎない「拠りどころ」となる「千葉大学医学部附属病院ビジョン 2040」を策定する着想を得た。しかしながら当時は新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応に追われ、病院全体や日本社会に緊迫した状況が続いていたことから、具体的な検討が難しい情勢であった。その後、新型コロナウイルス感染症が感染症分類5類への移行が決まるなど、一連の対応に節目を迎えたことから、2023年3月1日、横手幸太郎病院長発案のもと、「千葉大学医学部附属病院ビジョン 2040 懇談会」が設置され、第1回キックオフミーティングを開催するに至った。2024年2月までの全10回に及ぶ懇談会では、大鳥精司 整形外科 教授・副病院長を座長とし、1)診療、2)運営、3)研究・開発、4)人材育成の4つの視点から、「高度医療」「地域と機能分化・連携」「ストラクチャー」「デジタルトランスフォーメーション」「研究費確保」「研究開発」「優秀な人材の確保」「優秀な人材の育成」について、千葉大学病院が目指す方向や目標を定め、これらを達成するために必要な取り組みを逆算するアプローチで挑んだ。また、ステートメント作成を促進するため、全10回の懇談会とは別に、津田塾大学・元中央社会保険医療協議会会長の森田朗教授、スタンフォード大学の池野文昭主任研究員を招き、2040年の社会環境や諸外国における技術進展についての共通理解を深めてきた。

このような経緯を踏まえ、千葉大学病院の現状と目指す姿からいま何をすべきかについて、上述の4つの視点ごとに議論を尽くして策定した千葉大学病院内外に示すステートメント「千葉大学医学部附属病院ビジョン 2040」をここに報告する。

千葉大学病院ビジョン2040ステートメント

千葉大学病院は、一人ひとりが輝き、
お互いを尊重し、豊かな対話に基づく
開かれた大学病院を目指します。

千葉大学病院は、千葉県における
確固たる大学病院・教育研究機関として、
2040年へ向けた課題に挑みます。

私たちの社会はテクノロジーの進化によって、必要な情報を得ることができるようになりました。また、互いに支え合う「つながり」も進化し、多様な強みや価値観を持つ個人がお互いを尊重する文化への理解が深まっています。少子高齢化が進み現役世代が急減する2040年に向け、より良い社会を未来の千葉大学病院を担う世代へつなぐことは私たちの責任です。

千葉大学病院は、一人ひとりが自分らしく輝ける組織を中核的価値とし、互いを尊重し、豊かな対話に基づく開かれた大学病院を目指します。

千葉大学病院は、地域住民の健康を守り、信頼される大学病院・教育研究機関として、個人から地域、国際社会、地球環境の観点から貢献し、持続可能な社会を実現します。

これらを実現するために、「診療」「運営」「研究・開発」「教育・人材」について、次のことに取り組みます。

4つの取り組み

＜診療：質の高い医療を提供し続けます＞

千葉大学病院は、地域全ての人に質の高い医療を提供し続ける体制を格段に強化します。高度急性期・先進医療・希少疾患・小児医療・周産期医療・がん医療・生殖医療・ゲノム医療・高齢者医療・成人慢性期医療・感染症・予防医療等にも対応できる大学病院として、関連病院との連携を深めながら役割を明確化するとともに、地域住民の健康・医療・介護を地域で守るためのネットワークの構築に挑みます。

＜運営：職員が自らの強みを発揮できる全員参加型の病院運営をします＞

千葉大学病院は、その核心的価値が、性別や年齢、人種、障がい等の背景に依らない、職員一人ひとりの多様性によって構成されていると確信しています。

千葉大学病院は、未来の最先端医療を担う人材・病院・地域の特色を活かし、健康で明るい未来をともに目指します。

この目標を実現するために、千葉大学病院の将来像を職員が共有し、時代の変化に対応する革新的な取り組みを組織的に推進します。

特にテクノロジーを活用するための基本方針を策定し、業務プロセスを変革し続けることで、職員が自らの強みを発揮できる全員参加型の病院運営組織をつくります。

＜研究・開発：地域住民から信頼される研究機関を目指します＞

千葉大学病院は、臨床医学研究および産学官民連携の拠点となり、その成果を地域医療へ還元することで、地域住民から信頼される研究機関となることを目指します。

千葉大学病院は、次代を担う若手研究者が研究活動を行いやすく、卓越した国際レベルの研究成果を上げて活躍できる環境づくりと、部局や産学官民との領域横断的な研究や社会実装の創発に取り組めます。

これらを達成するために、持続可能な研究支援体制と財務戦略を策定し、大学全体と連携した中長期計画を策定します。

＜教育・人材：未来の医療を築く強固な教育・人材拠点づくりに挑戦します＞

千葉大学病院は、全ての職員が健康であるとともに、一人ひとりの自己実現や幸せと、豊かな対話に基づく健全な病院運営が両立できる病院を目指します。

千葉大学病院は、職員が仕事を通じて充実感を得ることができる環境づくりに留まらず、職員が多様なキャリアを選択し、積み重ね、学びを継続できる人的ネットワークをつくり、組織全体を活性化させ、未来の医療を築く強固な拠点づくりに挑戦します。